

有珠山

1 概況(平成14年5月)

火山活動に特別な変化はなく、静穏に経過しました。

2 噴煙活動の状況

金比羅山火口群のK-B火口の噴煙は昨年12月23日以降観測されていません。また、K-A火口でも噴煙が少なくなり、遠望カメラでは確認できない時間帯が多くなっています。西山西麓火口群のN-B火口の噴煙は概ね火口上100m以下で推移しました。山頂火口原、昭和新山では特別な変化はありません。

3 火口・地熱地帯の状況

5月28日と29日に定期的調査観測を実施しました。金比羅山および西山西麓火口群では噴気活動や地熱活動がさらに弱まっています。山頂火口原や昭和新山では特に変化ありません。

【K-A火口】

灰色の湯溜まり状態が続いていますが、今年3月と比較して熱水湧出の勢いはさらに弱まり、その範囲も縮小しました。

【K-B火口】

緑色の水溜まりとなっており、湧出や噴煙は認められませんでした。

【N-B火口】

今年3月に湯溜まりとなっていた火口底はほとんど乾燥し、弱い白色の噴気活動に戻っていましたが、赤外放射温度計で測定した火口温度は117(測定距離60m)で、昨年11月(143)と比較して約30低下しました。

【山頂火口原】

I(アイ)火口および小有珠南東斜面では、至る所から白色の火山ガスが勢いよく噴出しています。噴気温度の最高は398(I火口、昨年11月は393)で、高温の状態に変化はありませんでした。

【昭和新山】

亀岩の噴気温度は181(昨年11月は189)、亀岩南側噴気帯の噴気温度は294(同291)で高温の状態が続いています。

【四十三山】

南東斜面の噴気温度は54(昨年11月は54)でした。1985年以降ゆるやかな上昇傾向がみられましたが、1996年以降はほぼ横這いとなっています。

4 地震活動の状況

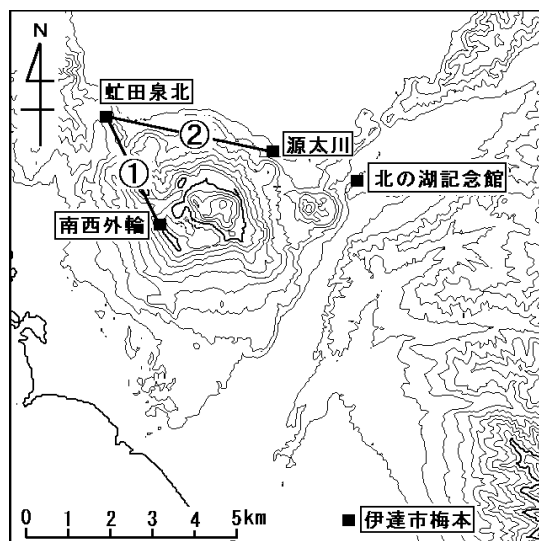
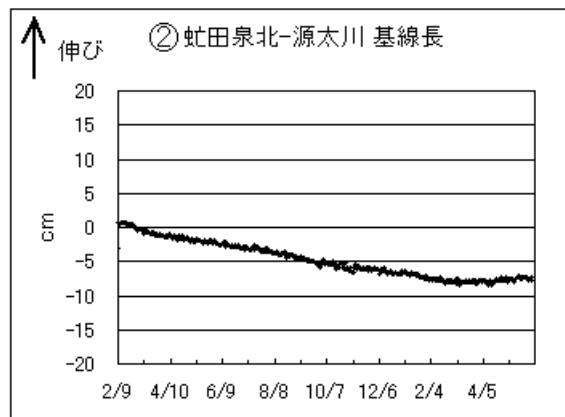
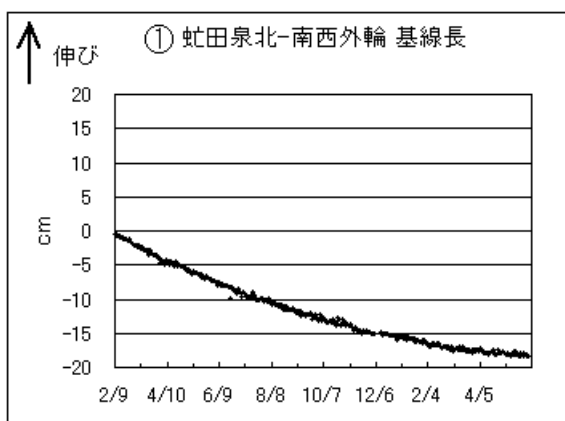
地震回数は1日あたり0~3回で推移しました。震源はほとんどが山頂火口原の浅い所と推定されます。火山性微動および空振は昨年9月以降観測されていません。

月別地震回数(A点)

平成13~14年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	37	22	42	24	29	38	18	16	27	26	23	18

5 地殻変動の状況

GPS観測では、西山西麓を中心とするわずかな収縮が続いていますが、その傾向は鈍くなってきました。



有珠山基線長グラフ(2001年2月9日~2002年5月31日)



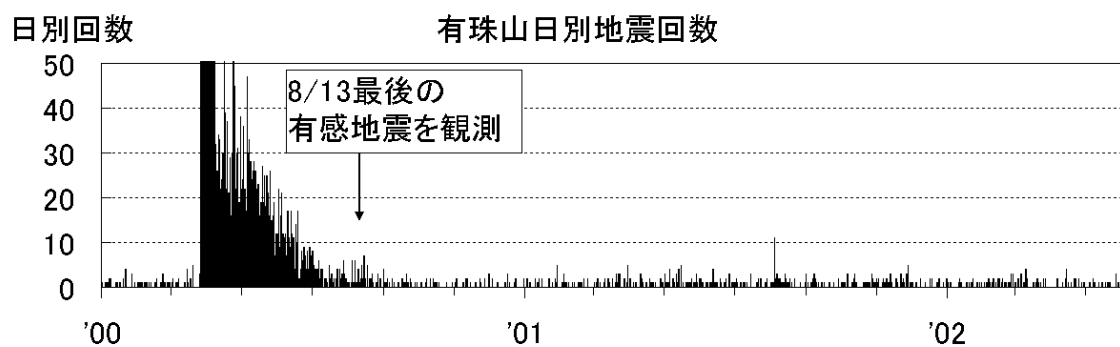
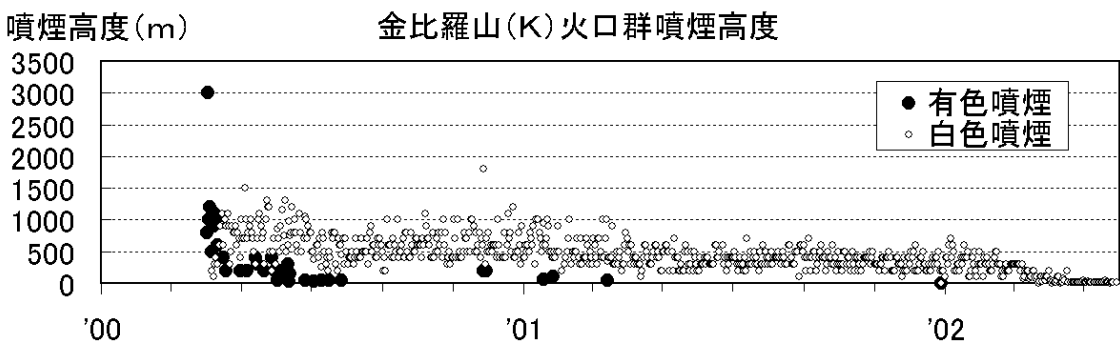
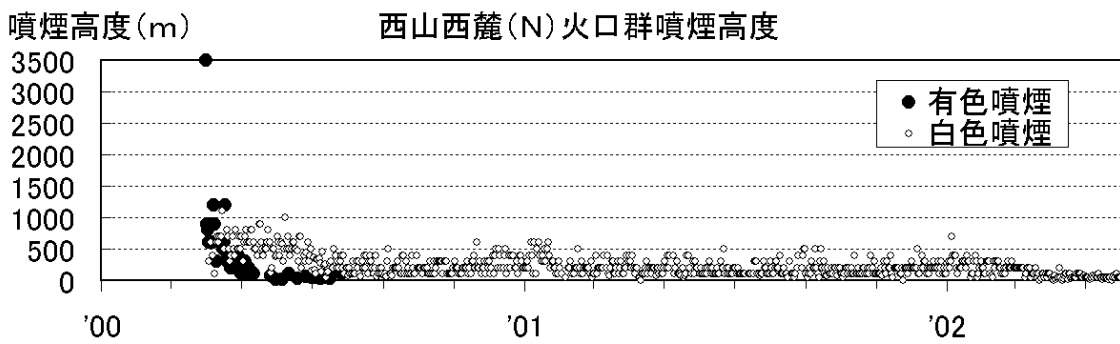
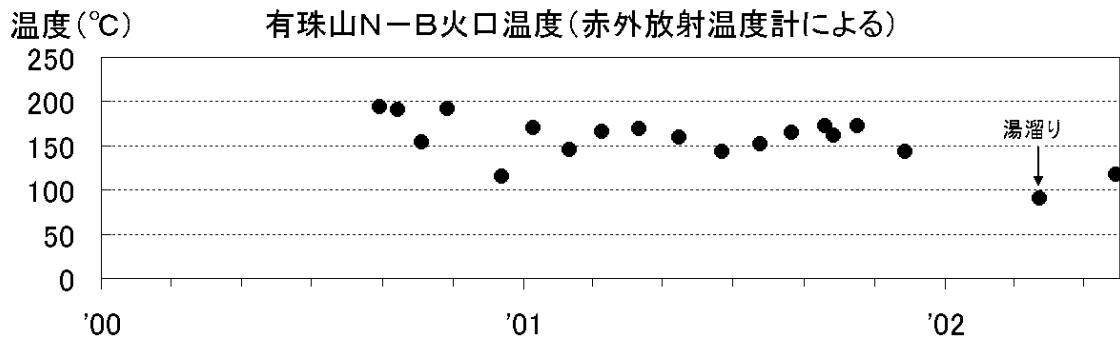
南側から見た K-A 火口(5月28日)



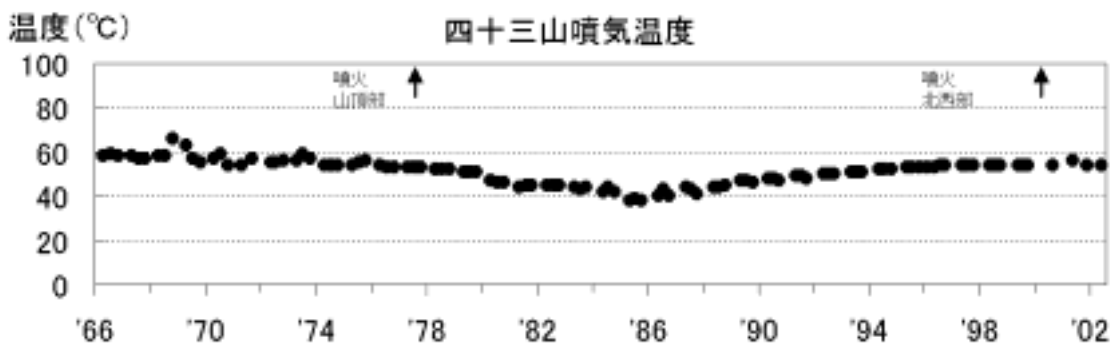
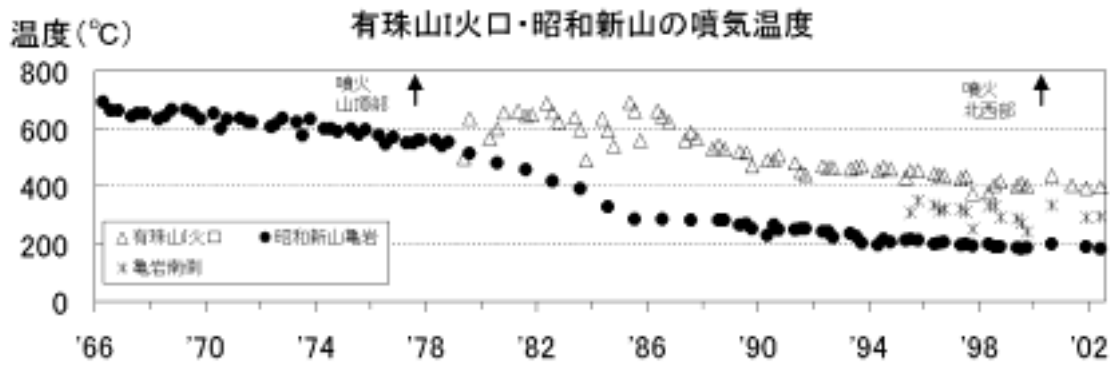
南西側から見た N-B 火口(5月28日)



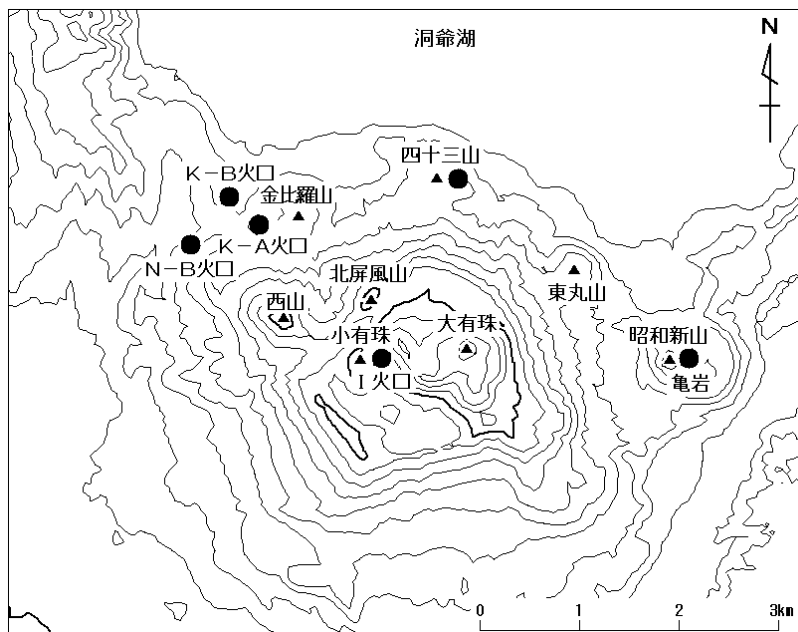
南側から見た K-B 火口(5月28日)



有珠山の火山活動経過図(2000年1月1日~2002年5月31日)



有珠山I火口、昭和新山、四十三山の噴気温度(1966年~2002年5月)



有珠山周辺図